



中国のインターネット教育アプリ事情

株式会社クララオンライン
コンサルティングチーム

<要約と結論>

中国のインターネット教育市場は、この数年好調に推移している。2018年第1四半期(1-3月)の取引規模は700億元に迫る勢いだ。急成長の背景には活発な投資に加え、国家戦略の後押しもある。2018年の重点領域の一つは、インターネット教育アプリの普及促進だ。

今後は伸び幅こそ縮小するものの、2020年には取引規模が4,000億元を突破すると期待される。現在は幼児教育と小中学生向けの学習アプリが過半数を占めるが、徐々に細分化が進み、様々なニーズに対応できるようになるだろう。

小中学生向け学習アプリでは、宿題の回答検索サービスが人気だ。わからない宿題の設問を写真に撮って送ると即座に回答が届くもので、人工知能や画像認識技術が用いられている。英単語の暗記用アプリやヒアリング練習用アプリも人気がある。

ユーザーの居住地によって、利用する教育アプリのばらつきは大きい。クラス単位で利用するためか、上海や北京といった1級都市では「一起作業」の利用比率が高く、逆に4級都市以下では利用が少ない。もっとも教育アプリのメインユーザーは2~4級都市に住む子供たちだ。

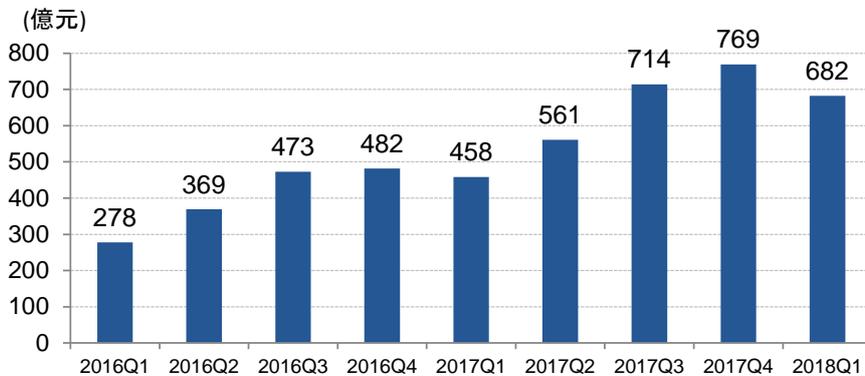
最もユーザーが多い教育アプリの「作業幫」は、宿題の回答検索のほか、ライブ配信授業や1対1で教わることができる家庭教師のサービスもある。同じく小中学生がターゲットの「小猿搜題」も宿題の回答検索や英作文の自動添削が無料で利用でき子供の勉強を見てあげる親のためのアプリもある。「一起作業」は、アプリが生徒用、保護者用、教師用に分かれており、相互リンクした上で活用するという特徴がある。クラスで一斉に導入するケースが多く、教師がアプリを通じて生徒に宿題を出し、生徒はアプリで宿題をする。もう宿題を済ませたかは保護者用アプリで確認することができる。

インターネット教育の対象は幼児にまで広がっており、スマートフォンが手放せない「デジタル子供時代」に警鐘を鳴らす向きもある。しかし教育リソースや教師リソースが不足する地域に住む子供にとっては、ライブ配信授業や家庭教師が利用できる教育アプリが新たな学習のチャンスにつながっている。

1. インターネット教育市場の規模

中国のインターネット教育市場が好調だ。2018年第1四半期(1-3月)の取引規模は前年同期比48.9%増の682億元に上る。

2016Q1-2018Q1 中国インターネット教育市場取引規模



Source: Enfodesk, Analysys International - www.eguan.cn / www.analysys.cn

特に2017年以降は投資家の注目を集めるようになり、今年第1四半期だけでも1月に「噓噓英語」がシリーズCラウンドで1億ドル、2月に「作業盒子」がやはりCラウンドで1億ドル、2月末には「洋葱数学」が1.2億元超、3月には「一起作業」が2.5億ドルをそれぞれ調達することに成功している。

インターネット教育市場が急成長する背景には、国家戦略の後押しもある。教育部は2018年2月に発表した「教育部2018年工作要点」で、“教育情報化2.0行動計画”と題して情報技術による教育改革、教育リソースのシェアリング、インターネット教育アプリの普及促進等を推し進める方針を明らかにしている。

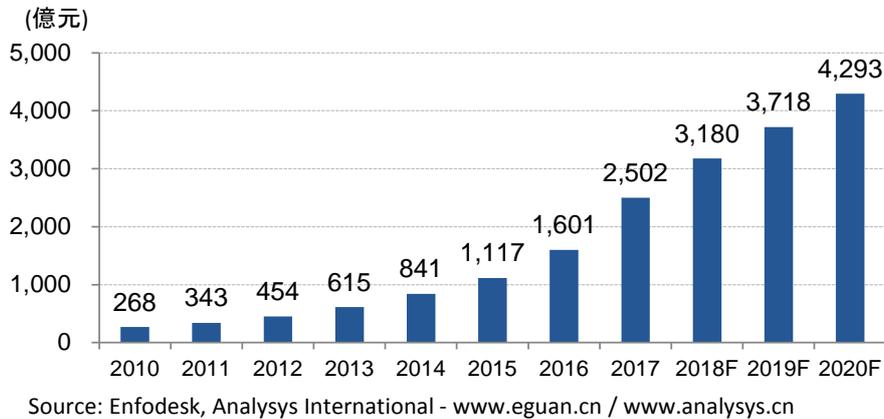


すでに人工知能と教育を組み合わせた応用研究も進んでおり、各種デジタル教材やカリキュラムの開発が行われているほか、学習進度や成績の分析も始まっている。

教育部关于印发《教育部2018年工作要点》的通知
http://www.moe.gov.cn/srcsite/A02/s7049/201802/t20180206_326950.html

今後は伸び幅こそ縮小するものの、2020年には取引規模が4,293億元に達するとの予測もある。市場の成長をけん引する大規模な投資は引き続き行われる見通しで、教育アプリや周辺サービスはいっそう細分化されて、様々なニーズに対応できるようになりそうだ。一方で、競争が激しくなり淘汰される企業が続出する懸念も高まっている。

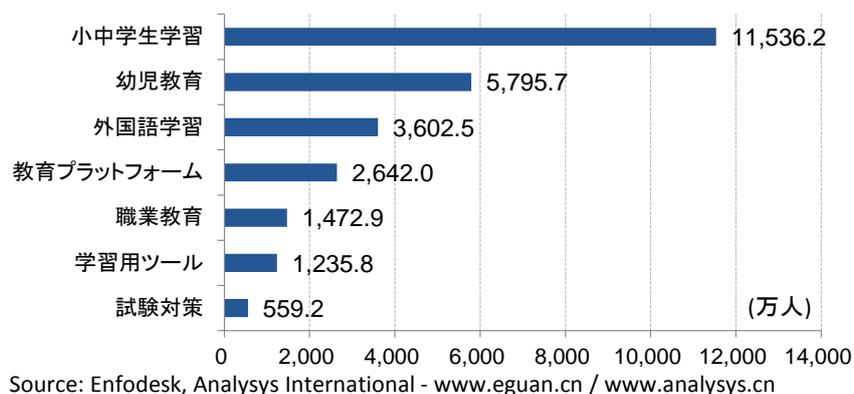
2018-2020年 中国インターネット教育市場規模予測



2. 現在のユーザー数

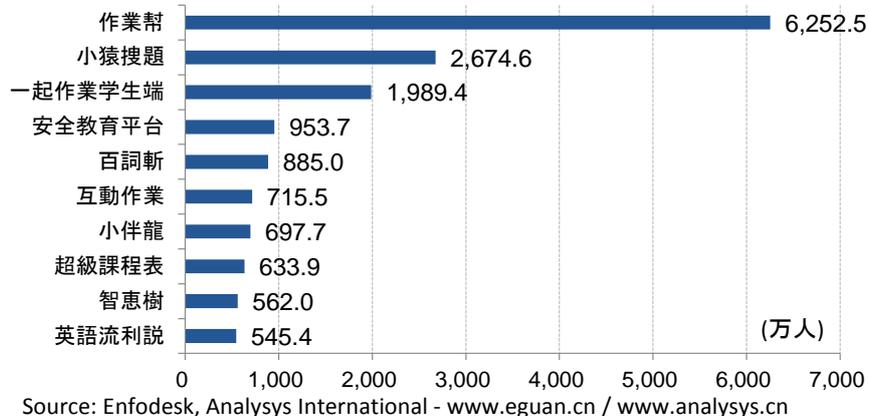
現在インターネット教育市場の中心を担うのはスマートフォン用アプリで、なかでも幼児教育と小中学生向けの学習アプリが市場の6割を占める。外国語教育や職業教育のアプリは時期によってユーザー数が大きく変動することはないが、小中学生向けの学習アプリは期末試験のタイミングでアクティブユーザーが急増するという特徴がある。

2018年3月 中国 教育アプリの分野別ユーザー規模



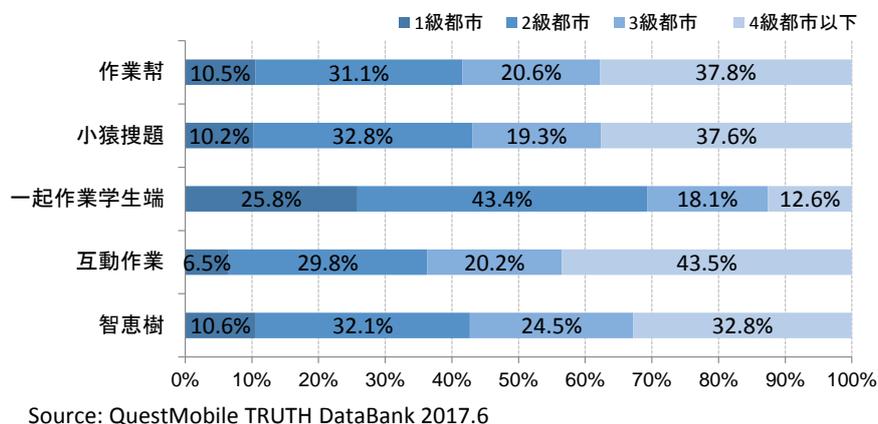
またアプリ別では「作業幫」の人气が最も高く、ユーザー数は6252.5万人に上った。上位2つのアプリは、どちらも宿題の回答を検索する機能が備わっており特に人气が高い。また5位の「百詞斬」は英単語の暗記支援アプリとなっている。

2018年3月 人気教育アプリのユーザー規模



ユーザーの居住都市によって、利用するアプリにばらつきが大きいこともわかる。上海や北京といった1級都市の子供たちは「一起作業」の生徒版を利用する割合が目立って高い。逆に4級都市やそれ以下に該当する地方の小規模都市や農村部に住む子供たちの間では「一起作業」を利用する割合は最も少なく、「互動作業」の利用が多い。

教育アプリの都市規模別利用率(小・中・高生)



全体では、2~4級都市に住む子供が教育アプリのメインユーザーとなっていることが分かる。これは、大都市の方が1人の教師に対する生徒の数が少なく、子供をとりまく教育環境が整っている上、両親が高学歴で子供の勉強を見てあげることができたり、

経済的に裕福で塾や家庭教師を利用していたりする割合が高いため、これらのアプリを利用する必要性が低いことが考えられる。

3. 人気アプリ

- 作業帮 <https://www.zybang.com>

最もユーザー数が多い作業帮は、百度(Baidu)のインキュベーション施設から誕生したサービスで、2014年1月にスタートした。2017年8月にはインターネット教育領域で過去最大規模となる1.5億ドルをCラウンドで調達している。2015年9月には中央電視台(CCTV)および教育部とパートナー契約を結んでいる。2016年7月からはインターネットを通じて授業をライブ配信する「作業帮一課」が始まった。



メインユーザーは小、中、高校生で、あらゆる科目に対応している。主なサービスには、数学等の問題を写真に撮って送ると回答が送られてくる「拍照搜題」、ライブ配信授業の「作業帮一課」、練習問題を繰り返し解くことができる「同步練習」、講師に1対1で質問しながら学習できる「一对一輔導」、英作文の回答を検索することができる「作文搜索」、中国語と英語の相互翻訳機能「中英互訳」等がある。「拍照搜題」ではデータベースに1.3億件を越える問題が蓄積されており、写真を送ると即座に回答が届く。「作



文搜索」も 800 万件以上の英文がストックされているという。ほとんどの機能は無料で利用できるが、「一対一輔導」は有料となる。「同学圈」というユーザーコミュニティでは、漫画や小説、写真、アイドル等の様々なテーマのチャンネルが用意されている。

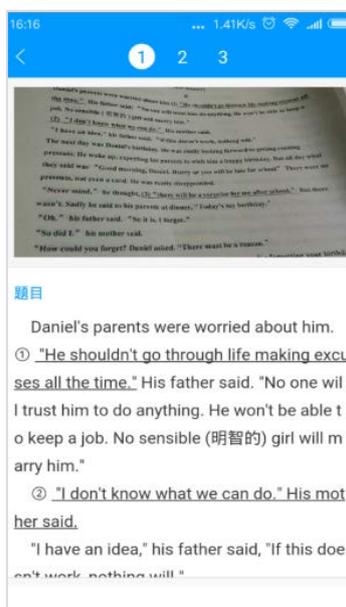
ユーザー数は 2017 年 11 月時点で累計 3 億人、月間アクティブユーザー数は 6,000 万人を越えるとされる。

● 小猿搜題 <http://www.yuansouti.com>

こちらは小学生と中学生がメインターゲットで、「作業幫」と同様に問題の写真を送ると回答が届いたり、英作文の自動添削ができたりするサービスが無料で利用できる。有料のオンライン家庭教師サービスもあり、毎月 25 元か年額 198 元となっている。



また兄弟アプリが複数あり、「小猿題庫」では、全国の中学、高校の過去の入試問題を繰り返し練習できる。「小猿輔導」ではライブ配信授業を視聴することができ、すでにのべ 100 万人以上が利用しているという。授業は配信修了後にダウンロードして、無制限に繰り返し視聴することが可能だ。変わったところでは、子供の勉強を見てあげる親のためのアプリ「小猿口算」があり、同様に問題の写真を撮って送ると計算等の回答を確認することができる。



- 一起作業 <http://www.17zuoye.com>

サービス開始は2011年10月で、当初は小学生の英語と数学に特化していたが、2016年11月に中高生の理系科目を中心とした教育アプリ「快樂学」を買収したことをきっかけに、現在は全科目を扱っている。前出の2つのアプリは宿題の答えを探す機能が目を引くが、こちらは自主学習用教材といった側面が強い。



2016年時点で全国31の直轄市・省・自治区にある8万を越える学校で採用されており、登録ユーザー数は2,300万人以上、うち課金ユーザーが約30万人いるという。特に英語教材に定評があり、米カリフォルニア大学と共同で開発した発音練習システムの評価が高い。

生徒用アプリでは、自主学習として英語や数学の反復学習を行ったり、全国の入試問題にチャレンジしたり、教師からアプリを通じて出された宿題を解いたりすることができる。単独での利用はもちろん、保護者用アプリ、教師用アプリとの相互連携が可能で、保護者用アプリでは、子供の学習進捗や宿題の状況を確認したり、学校での成績を確認したり、担任教師と直接連絡を取ったりすることも可能だ。教師用アプリでは、普段の授業の補助ツールとして使えるほか、アプリを通じて生徒に宿題を出したり、その回答状況を確認したりすることができる。



左から生徒用アプリ、両親用アプリ、教師用アプリの画面

4. “デジタル子供時代”に賛否両論

インターネット教育の対象は幼児にまで広がっているが、スマートフォン、タブレット端末、パソコンの3つのデジタル機器に囲まれて育つ「デジタル子供時代」に警鐘を鳴らす向きもある。中国共産党の青年組織、共青团(共産主義青年団)の発表によると、0～5歳の幼児のスマートフォン使用率は80.4%に上る。幼少期には親のスマートフォンで「喜羊羊」(子供向けアニメ番組)を見て過ごし、少し大きくなると「切西瓜」(落ちてくる果物を画面スワイプで切るモバイルゲーム)に熱中するようになり、学校へ入ると宿題はパソコンやスマートフォンで回答を調べて済ませ、次第に遅くまでオンラインゲームで友人と遊ぶようになる、などと揶揄される。



今年の子供の日にはニュースにも取り上げられた

「全国小中学生学習プレッシャー調査」の結果によれば、2000年代生まれの子供のスマートフォンの利用時間は1日平均2時間15分で、65%が勉強にも利用している。宿題の回答検索には1日平均15分を費やすといい、数学の宿題には中学生の71.4%、高校生の45.0%が回答検索を利用する。当然ながら親世代の77%は回答検索に反対で、親がいる

時にのみ使用させている家庭が31%、完全に使用を禁止している家庭も4%あった。

一方で、教育リソースや教師リソースが不足する河南、江西、広西、貴州、甘肅といった地域に住む子供たちにとっては、ライブ配信授業や家庭教師も利用できる教育アプリが新たな学習チャンスを生んでおり、その効果に大きな期待が寄せられている。

- 本レポートに含まれる情報は一般的なご案内であり、包括的な内容であることを目的としておりません。また法律・条令の適用と影響は、具体的な状況によって大きく変化いたします。具体的な事業展開にあたってはクララオンライン コンサルティングサービスチームより御社の状況に特化したアドバイスをお求めになることをおすすめいたします。また本書の内容は2018年6月11日時点で編集されたものであり、その時点の法律及び情報、為替レートに基づいています。

本書はクララオンライン コンサルティングサービスチームにより作成されたものです。クララオンラインの中国、台湾、韓国、シンガポールなどアジア各国のインターネットコンサルティングサービスに関するお問い合わせは以下の連絡先までお気軽にご連絡ください。

asia@clara.ad.jp または +81(3)6704-0776